

野生動物からみた
フラネタリーヘルス



サルは鳥の食卓に参加して進化した



コウモリ

樹上の世界

鳥



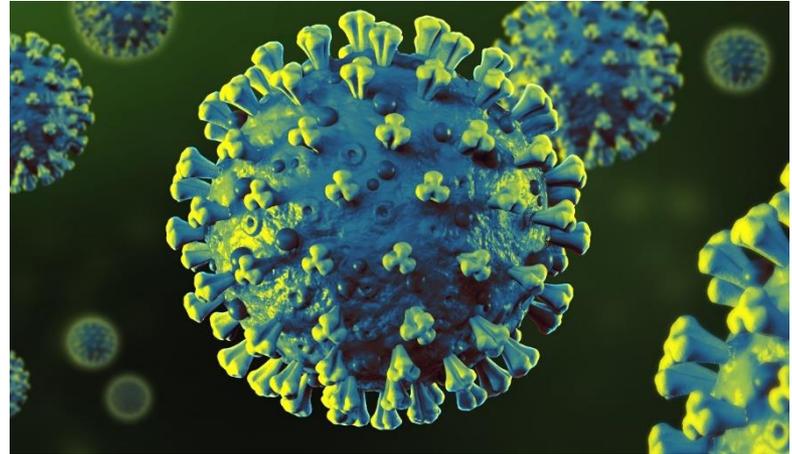
**植物もサルたちと
共進化をはじめた**

モンキーフルーツ

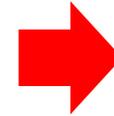
エボラ出血熱と新型コロナ



エボラ出血熱
感染源はオオコウモリ
潜伏期7~10日間
致死率80%以上
接触感染



新型コロナ
潜伏期7~10日間
致死率2割以下
無症状の人も多い
飛沫感染



エボラと
違い
感染を広
げる原因

エボラはなぜ人間に感染して拡大したのか

手つかずの熱帯雨林



コウモリとゴリラはめったに接触しない

森林の伐採



果樹が減りコウモリとゴリラの接触が増える

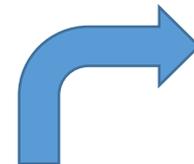
現金経済の導入



伐採の終了



野生動物の狩猟



伐採道路を使い都市へ出荷

微生物とウイルスの存在

地球は微生物の惑星

野生動物には多くのウイルスの
遺伝子が組み込まれている

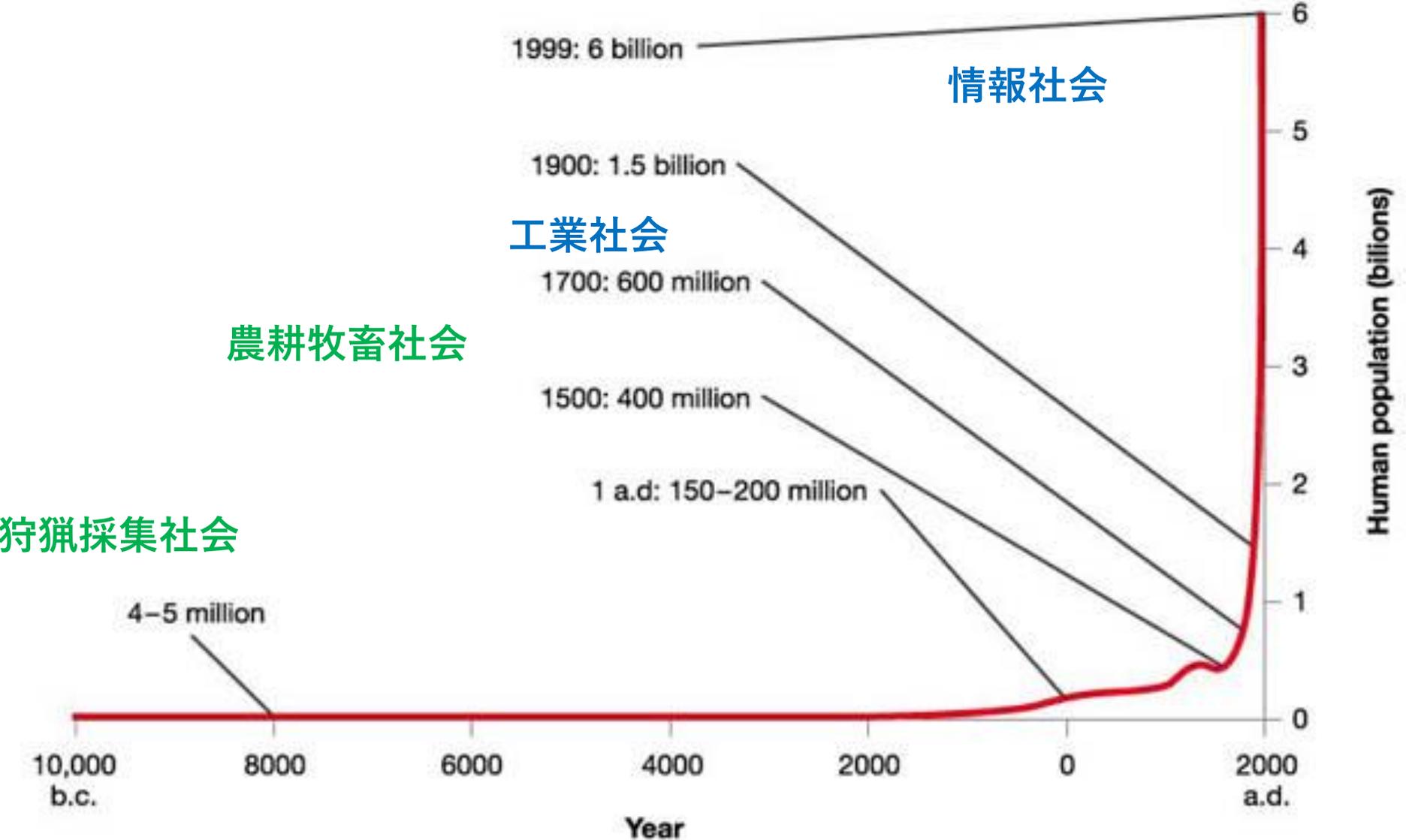
人間の活動や気候変動による生態系の破壊



未知のウイルスが野生動物を介して家畜や人間に感染

現代は人新世 (Anthropocene) の時代

超スマート社会



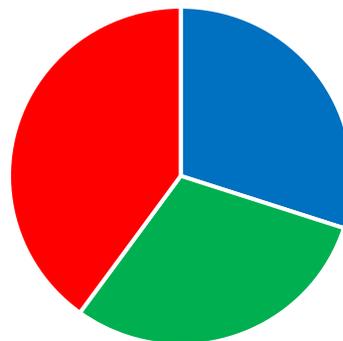
世界の哺乳類の量

人間と家畜が9割以上

ヒト	78億
ウシ	15億
ヒツジ	12億
ヤギ	10億
ブタ	10億
ニワトリ	500億

ゾウ	62万
チンパンジー	30万
ゴリラ	20万
ペンギン	3,000万

地球の陸地に占める割合



■ 砂漠・ツンドラ ■ 森林 ■ 牧草地・畑地

フラネタリーバウンダリー

9つの指標

気候変動

新規化学物質

成層圏オゾンの破壊

大気エアロソルの負荷

海洋酸性化

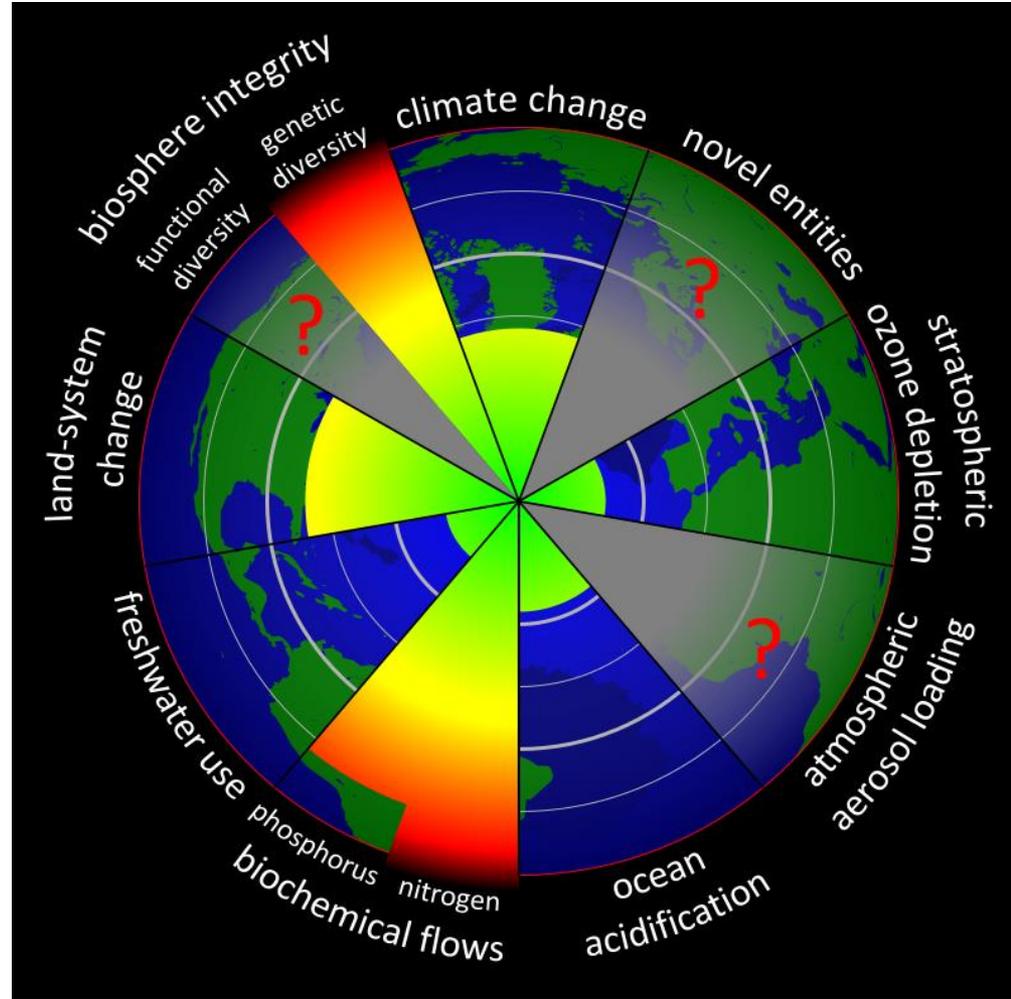
生物地球化学的循環

淡水利用

土地利用変化

生態系機能の消失

生物多様性



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



**人間が生きるうえで
不可欠なのに**

**SDGsにないものは
何だろうか？**

それは、文化

文化は数値化されない

文化は体験と共感によって
体に埋め込まれる

文化は衣食住の中に
反映される



総合地球環境学研究所



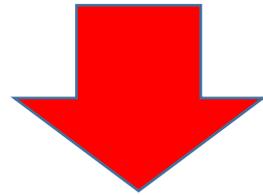
**地球環境問題の根幹は、
人間の文化の問題である。**

「文化的多様性に関する世界宣言」

2001年ユネスコ総会(パリ)

- 生物的多様性が自然にとって必要であるのと同様に、文化的多様性は、**交流、革新、創造の源**として、人類に必要なものである(第1条)
- 地球上の社会がますます多様性を増している今日、**多元的であり多様で活力に満ちた文化的アイデンティティー**を個々に持つ民族や集団同士が、互いに共生しようという意志を持つとともに、調和の取れた形で相互に影響を与え合う環境を確保することは、必要不可欠である(第2条)
- 創造は、文化的伝統の上に成し遂げられるものであるが、同時に他の**複数の文化との接触**により、開花するものである。(第7条)

文化の問題とは何か？



自然の多様性とミスマッチを起こす

自然の関係と循環を断ち切る



コロナ後の社会に必要なこと

- **関係性と循環**を重要視する(生命地域共同体)
- **Eco-DRR (Ecosystem-based Disaster Risk Reduction)** 緩衝空間として生態系を海と陸の境界に設け、自然災害を防ぐ戦略
- **One Health**:動物、環境の衛生に関する分野横断的な課題に対し、関係者が連携してその解決に向けて取り組む
- **里山の再利用**(里山の価値の再認識と再整備)
- 分散型居住の推進と地域づくり(山水郷としての暮らしの価値—**山・森・里・川・海**の循環を利用)

地球の生物圏

- 自然は常に変化している
- 生物は常に動いている
- それぞれの生物には独自の
リズムと動きがある
- それぞれの生物は進化の歴史がある
- いのちは互いにつながっている
- いのちが輝く場所がある



人間はそれを知るために

- 人間の縮尺に合わせる
- 動きを止めて見ようとする
- ある動きだけに注目する
- ある生物だけを取り出して見る
- 人間の世界に合わせて物語を作る
- 人間のリズムと動きに同調させようとする

地球の持続可能性

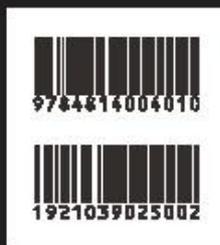
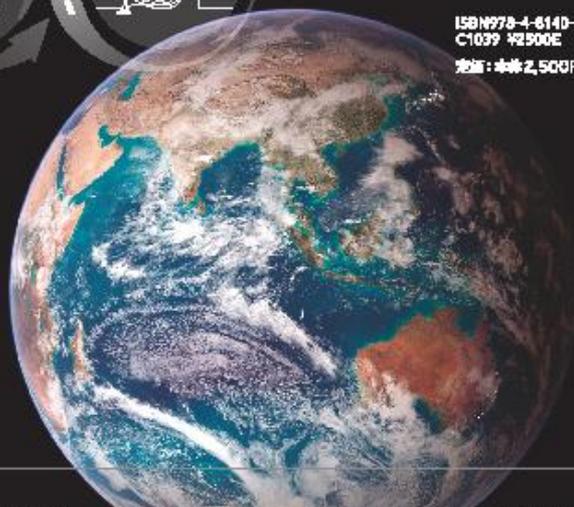
資源の枯渇と廃棄物累積

イニシエーターとターミネーターは同一

食物連鎖

生態系の関係網と循環

生物多様性



ISBN978-4-614-0401-0
C1039 92500E
定価：本体2,500円(税別)

レジリエンス人類史

稲村 哲也
山根 壽一
清水 辰
阿部 健一



京都大学学術出版会

私たちが直面しているのは1980～70年代、国際社会でそれが取り上げられたのは80年代です。しかし以来30年経っても解決の道は見えません。科学の知見だけでは社会は脆くないことを痛感します。なぜ社会は変わらぬのか、変わるには何が必要か。この本は、人類史に埋め込まれたヒトの共感力や適応力が、うまく発揮される時もあれば萎縮しなくなることもある、その理由を明らかにしてくれます。自然科学から人文学までの総合知と思考の慣習を本書から学ぶことで、「転換する力」を今こそ再探しようではありませんか。

眞鍋淑郎

(地球科学者・2021年ノーベル物理学賞受賞・2010年第1回KYOTO地球環境賞の最優秀賞)

稲村 哲也・山根 壽一・清水 辰・阿部 健一

IRIHAKA, Tetsuya THAKURA, Shuichi SHIMIZU, Hiromasa ABE, Kenichi



レジリエンス人類史

“弱さ”を“強み”に変えたヒトの歴史から学ぶ
レジリエンス史観で
危機の時代を乗り越えろ

眞鍋淑郎氏 推薦

(地球科学者・ノーベル物理学賞受賞)



京都大学学術出版会

第21章

フナタリーヘルスと食の変革

モハー千・ゲルゲイ、木村友美

フナタリーヘルスとは、
地球環境と人間そして動植物との関係性に焦点をあて、
気候変動の時代に突入した人間の健康を追求する研究
と実践をつなぐ試み

食と健康のルーフ

人新世のバックルーフ



ご静聴ありがとうございました